

< あなたの治療について >


皮膚科 – Pembrolizumab – 悪性黒色腫 – q3w

今回の治療は、KEY という治療法で、キイトルーダ ( KEY ) という注射薬で治療を行います。腫瘍の増殖を抑えるお薬です。

治療全体の流れ

今回の化学療法は3週間が1コースとなっています。各コースの1日目に点滴を行います。この治療を3週間 ( 2 1日間 ) ごとに繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

1コース分の治療スケジュール

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2~21日目
	キイトルーダ (抗がん剤) 200mg/body	点滴 約30分		お休み

点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなったりはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

特徴的な副作用について

キイトルーダにおける

間質性肺疾患

「発熱、から咳、息苦しい」などの症状

甲状腺機能障害、下垂体機能障害、副腎機能障害

「全身倦怠感、むくみ、発汗、体重減少、意識がうすれる、血圧低下」などの症状

ぶどう膜炎

「霧視 ( かすみがかかったように見えること )、飛蚊症 ( 虫が飛んでいるように見えること )、羞明感 ( まぶしく感じる )、視力低下、眼痛、充血」などの症状

Infusion reaction

「発熱、悪寒、そう痒症、発疹、高血圧、低血圧、呼吸困難等」などの症状

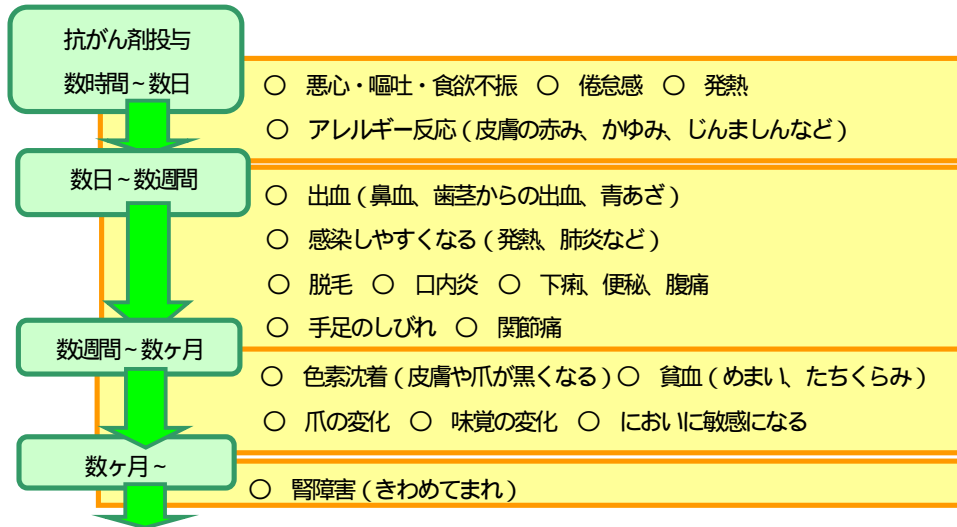
\* 上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

## 副作用の発現時期の目安

\*この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗癌剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



## 副作用の対策について

吐き気・嘔吐，下痢と便秘，口内炎，感染症，出血，貧血，脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しができますのでお申し出下さい。

## 薬品毎の副作用について(添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋)

**まれな副作用ですが、この様な症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。**

### 【キイトルーダ】

- <間質性肺疾患>発熱、から咳、息苦しい
- <大腸炎、重度の下痢>嘔吐(おうと)、腹痛、下痢、泥状の便
- <皮膚粘膜眼症候群、多形紅斑>まぶたや眼の充血、唇や口内のただれ、発疹、みずぶくれ
- <類天疱瘡>かゆみの激しい水疱
- <神経障害>運動のまひ、手足のしびれ、指先のしびれ、歩行困難
- <肝機能障害、肝炎>からだがだるい、白目が黄色くなる、かゆみ
- <甲状腺機能障害>汗をかきやすい、胸がドキドキする、からだがだるい、寒がりになる
- <下垂体機能障害>からだがだるい、頭がぼーっとしたり意識がなくなったりする、血圧低下
- <副腎機能障害>からだがだるい、意識がうすれる、低血圧
- <1型糖尿病>からだがだるい、のどの渇き、尿の量が増える、意識の低下
- <腎障害>むくみ、頭痛、尿量が減る
- <肺炎>吐き気、嘔吐、胃・おなかの激しい痛み、背中での痛み
- <筋炎、横紋筋融解症>脱力感、筋肉の痛み、息苦しい、赤褐色尿
- <重症筋無力症>まぶたが重い、上まぶたが下がる、物がだぶって見える、筋肉の疲労感
- <脳炎、髄膜炎>発熱、頭痛、意識の低下
- <インフュージョン・リアクション>呼吸困難、意識障害、まぶた・唇・舌のはれ

上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。

